

JASSO海外留学支援制度協定派遣奨学金の受給資格・要件 (「2025年度海外留学支援制度(協定派遣)事務手続きの手引き」抜粋)

第2章 派遣学生の資格・要件

次の(1)～(8)に掲げる資格及び要件を全て満たす者とします。

(1) 日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている者(特別永住者を含む)

※1 日本への永住が許可されていない「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「定住者」は対象となりません。

※2 多重国籍者においても、(1)を満たす者は対象となります。

(2) 学生交流に関する協定等に基づき、派遣先大学等が受入を許可する者

※ 派遣先大学等が受入を許可しても、日本に留学中の外国人留学生は本制度の対象となりません。

(3) 在籍大学等において「経済的理由により、自費のみでの派遣プログラムへの参加が困難な者」として認められる者

(4) 派遣プログラム参加にあたり、必要な査証を確実に取得し得る者

※1 査証の種類は問いません。

※2 査証が免除される場合は、登録時に「0:不要」を選んでください。

(5) 派遣プログラム終了後、在籍大学等に戻り学業を継続し、在籍大学等の学位を取得する者又は卒業する者

※1 退学・除籍の予定がある者は、要件を満たしません。

※2 プログラム途中に正規の課程を卒業・修了する者は、要件を満たしません。例えば、プログラム途中に学部課程を卒業し、引き続き大学院に入学する者も要件を満たしません。

(6) 在籍大学等における学業成績が優秀で人物等に優れており、かつ、次に定める方法で求められる、在籍大学等における選考時の前年度の成績評価係数が2.30以上(3.00満点)である者

[成績評価係数の算出方法]

下記の表により「成績評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出してください。なお、履修した授業について単位制を採らない場合は、科目数を全て単位数に置き換えて算出してください。(小数点第3位を四捨五入)

	成績評価				
4段階評価(パターン1)	—	優	良	可	不可
4段階評価(パターン2)	—	A	B	C	F
4段階評価(パターン3)	—	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
5段階評価(パターン4)	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
5段階評価(パターン5)	S	A	B	C	F
5段階評価(パターン6)	A	B	C	D	F
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

$(\text{評価ポイント3の単位数} \times 3) + (\text{評価ポイント2の単位数} \times 2) + (\text{評価ポイント1の単位数} \times 1) + (\text{評価ポイント0の単位数} \times 0)$

総登録単位数

1) 前年度の成績を含めた入学時からの累計の成績評価係数が2.30以上あれば、同等とみなして構いません。

2) 在籍課程の前年度の成績が選考時までに判明しない場合

原則、選考時の前学期分の成績から算出してください。前学期分の成績も判明しない場合は、以下※1～※4のとおり、算出してください。

成績評価係数で表すことができない等の場合、以下3)を参照してください。

- ※1 学部1年次1学期目の者は、高等学校最終年次の成績から算出してください。
- ※2 修士1年次1学期目の者は、学部最終年次の成績から算出してください。
- ※3 博士1年次1学期目の者は、修士最終年次の成績から算出してください。
- ※4 前年度休学者は前々年度の成績から、前年度後期休学者は前年度前期の成績から算出してください。

3) 成績評価係数で表すことができない又は前学期分の成績も判明しない場合

学校において、客観的な学業成績の判断基準を用い、派遣学生の学業成績を総合的に判断し、成績評価係数2.30相当以上であるとする理由を「成績評価係数確認書」(様式M)に明記してください。

- ※1 人物像や熱意といった学業成績と異なるものにより、学業成績を判断することはできません。
- ※2 派遣プログラムの参加資格があることをもって、本制度の学業成績要件に該当すると判断することはできません。
- ※3 特定の科目(語学等)の成績のみを用いて学業成績を判断することはできません。

＜客観的な学業成績の判断基準の例＞

- 例1) 入学試験の成績が○人中上位○位までについて、成績評価係数2.30相当以上とみなす。(入学試験の可否を基準とすることは認めません。)
- 例2) 修士1年次は、学部最終年次の成績が○点満点中○点以上の者について、成績評価係数2.30相当以上とみなす。
- 例3) 派遣プログラム参加のための選考試験の成績が○人中上位○位までについて、成績評価係数2.30相当以上とみなす。
- 例4) 算定できない科目(合格・不合格評価のみ)がある者は、「合格」評価を一律○点とし、「不合格」評価を一律○点としたうえで、全科目の成績評価係数を算出してください。

(7) 本制度以外の派遣プログラム参加のための奨学金等(渡航に係る費用及び返済が必要な貸与型奨学金や学資ローンは含まれない)を受ける場合、当該奨学金等の支給月額(複数の団体等から受ける場合は合計金額の月額換算額)が、本制度による奨学金月額を超えない者

- ※1 機構が実施する「第一種・第二種奨学金」(貸与型)との併給は可能です。
- ※2 機構が実施する「国内の給付奨学金」、「海外留学支援制度(大学院学位取得型)」との併給は認められません。なお、留学期間中の給付を停止する場合は、各学校の国内の給付奨学金担当者を通じて、**給付奨学金の支給を停止**する手続きをしてください。また、海外留学支援制度の受給による停止の際は、留学前に**復活の手続き**についても、国内の給付奨学金担当者を通じて確認してください。
- ※3 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム～」との併給は認められません。
- ※4 本制度以外の派遣プログラム参加のための奨学金等(以下「他の奨学金等」という。)とは、派遣学生に直接支給されるものを指します。クラウドファンディング等、プログラム参加のために募った資金は他の奨学金等に該当します。宿泊費や授業料等として在籍大学等から宿泊先や派遣先大学等に支払われる場合は、他の奨学金等に該当しません。
- ※5 他の奨学金等が月額支給でない場合は、月額に換算した額により確認してください。
- ※6 他の奨学金等に航空券代等の渡航に係る費用が含まれている場合は、その額を切り離したうえで、月額換算し、本制度による奨学金月額を超えなければ併給可能です。
- ※7 プログラムの目的・目標達成及び派遣学生の学修(研究)に支障がないと在籍大学等が判断した場合は、報酬を伴う研修やインターンシップ、アルバイト等についての収入は、金額に関わらず本制度の奨学金と併給が可能です。
- ※8 他の奨学金等を受ける際、奨学金等支給団体側が、本制度の奨学金との併給を認めない場合があるので、注意してください。
- ※9 在籍大学等や他の団体から、留学に関係なく支給される奨学金は、金額によらず併給可能です。

(8) 原則として、外務省の「海外安全ホームページ」上の「レベル2: 不要不急の渡航は止めてください。」以上に該当する地域以外に派遣される者

- ※1 外務省の「海外安全ホームページ」の地図に、派遣先大学等の都市名が書かれていない場合は、地図を見て判断してください。
- ※2 派遣学生として登録する時点で、派遣先大学等の所在地が「レベル2」以上に該当する地域になった場合は、原則、本制度の派遣学生として登録することは認められません。また、派遣学生の留学期

間中に派遣先大学等の所在地が「レベル2」以上に該当する地域になった場合は、奨学金の支給を原則見合わせます。

＜参考＞ ■レベル2:不要不急の渡航は止めてください。
■レベル3:渡航は止めてください。(渡航中止勧告)
■レベル4:退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)

※3 安全情報は刻々と変化します。最新の情報を常に把握し、派遣学生の安全を確認してください。

※4 「第4章 派遣学生の登録申請、機構による登録承認、奨学金・渡航支援金支給申請～送金 1. 派遣学生の登録申請(学校→機構) 7)海外安全情報」及び「第10章 その他 3. 派遣学生等の安全管理」も併せて確認してください。